

CO・OP

京都の生協

2025/August/No. 114
京都府生活協同組合連合会



組合員の声から生まれた、たすけあいの新拠点

TalkTalk トークとーく

●生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ 理事長 やま山 じ路 よう容 こ子さん
●京 都 府 生 活 協 同 組 合 連 合 会 会長理事 にし西 しま島 ひで秀 ひさ向



TalkTalk トークとーく

対談

組合員の声から生まれた、 たすけあいの新拠点

生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ 理事長 山 路 容 子 さん
京 都 府 生 活 協 同 組 合 連 合 会 会 長 理 事 西 島 秀 向 さん

2025年4月、生活クラブ 京都エル・コープが京都市南区に開所した、たすけあいの活動スペース「りんく・る」。子育て支援や介護事業、居場所づくりや自分らしく働ける場の創出など、地域の課題に地域の人々とともに取り組む福祉複合施設です。今回はその「りんく・る」を訪ね、理事長・山路容子さんに開所までの経緯とともに、地域の人々が集い、支え合い、つながりを育む場づくりへの思いと具体的な取り組みについて伺いました。

「自分たちの生活を自分たちで自治する」の 理念のもと発足した、京都エル・コープ

西島 まず、生活クラブ 京都エル・コープ（以下エル・コープ）発足の経緯からお聞かせください。

山路 1993年に、「自分たちの生活を自分たちで自治する」という理念のもと、生活クラブエル・コープが誕生しました。京都ではすでに京都生協さんが活動されていま

したが、「さまざまな形の生活クラブがあってもいいのでは」という声から立ち上がったと聞いています。設立趣意書にも、「自分たちの地域や暮らしの課題をできる限り自分たちで解決していこう」という思いが込められていました。

西島 その後、2007年に生活クラブ連合会に加盟され

たのですね。

山路 はい。生活クラブは1965年に設立され、長い活動実績があることから、理念や仕組みを参考にしていたこともあり、私たちが（より発展していくには）描いた未来を実現させるには共に歩むことが望ましいと考え、加盟に至りました。

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

組合員の声から生まれた、たすけあいの新拠点	2
くらしの安全／食べたいせつの取組	
適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西（KC's）通常総会・記念シンポジウム	7
適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク（KCCN）総会	7
第56回京都消費者大会開催	7
食の安心・安全学習会「永遠の化学物質PFAS」開催	7
京都府生協連第72回通常総会開催	8

総会だより

京都労働者福祉協議会第69回定期総会	8
京都府災害ボランティアセンター総会・全体研修会	8
（一社）京都食品産業協会定時総会	8
京都府中小企業団体中央会総会70周年記念式典	9
きょうと食育ネットワーク総会	9
NPO法人京都地球温暖化防止府民会議通常総会	9
2025国際協同組合年（IYC2025）	
2025年国際協同組合デー	
第35回京都集会開催「国際協同組合年（IYC2025）を迎えて」をテーマに開催	10

学習会「協同組合のアイデンティティを考える～

IYC2025の機会に～」開催	11
能登半島地震被災地支援ボランティア参加報告	11
ピースアクション京都 2025	12
憲法学習会「憲法が描く平和の未来—私たちができること」開催	13
第1回子ども平和新聞プロジェクト開催	13
京都府生協連 第52回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	14
おもな行事のお知らせ	14



生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ
理事長
山路容子さん

西島 加盟により変化した点
はありますか？

山路 私たちは、扱っている
ものを「自分たちが必要だと
考えてつくったものを自分た
ちで消費していく」という意
味で「消費材」と呼んでいま
す。これは生活クラブの考え
方で、生産者と共に消費材を
育てる姿勢を大切にしている
生活クラブに加盟したこと

で、生産者交流会などで生産
者に直接お話をうかがう機会
が格段に増えました。品揃え
が変わっただけでなく、つく
る過程や思い、課題などもよ
り深く共有できるようになっ
た点は大きな変化でしたね。

西島 仕組みや姿勢も含めて、
学ぶ点が多かったのですね。
山路 今回のたすけあい活動
スペース「りんく・る」(以

下「りんく・る」の開所に
向けて、2020年の総代会
で地域福祉政策を提案した際
にも、生活クラブ連合会の考
え方を勉強し参考にしました。

特に、東京や神奈川の生活ク
ラブは1980年代から福祉
事業に取り組んでおられ、施
設見学の機会やアドバイスな
どをいただき、加盟の意義を
あらためて感じましたね。

ぶ機会を持ちたいと考え、理
事会主催の連続講座「暮らし
続けたい地域社会を描く」を
6回実施しました。高齢者や
障害者福祉、成年後見制度な
ど福祉に関するさまざまなテ
ーマに取り組む講演者の方々
のお話から、地域福祉に対
する理解を深めることができ
ました。

西島 そして、実際の政策立
案に取り組まれたのですね。

西島 「りんく・る」ができ
る以前、ここはどういった場
所だったのですか？

山路 もともと配送センター
兼本部として使っていました。
1階は倉庫と駐車場、2階は
本部や事務所、組合員室、3
階はキッチンや会議室でした。
現在は南区上鳥羽に新たに本
部と配送センターを構えてい
ます。

西島 開所までにどんな経緯
があったのでしょうか。

山路 2016年に地域政策
検討委員会を立ち上げ、理事
会を中心に「今、地域や組合
員に必要とされていることは

組合員の生活の課題に応える地域福祉の拠点 「りんく・る」

何か」という視点から検討を
始めました。最初に取り組ん
だのが、全配送エリアに住む
組合員へのニーズ調査です。
理事会のただで議論するの
ではなく、アンケートでみな
さんの要望を知り、活かし
たと考えたためなんです。

相当な数の質問項目でした
が、当時約6000世帯の組
合員のうち約4〜500世帯
から回答が得られました。中
でも目立ったのが、「居場所
がほしい」「相談できるとこ
ろがほしい」など、生活上の
不安に関する声でした。自由
記述欄にも切実な思いが多く

寄せられ、私たちへの期待の
大きさを実感しました。

西島 「生活を自治する」う
えでの具体的なニーズがそこ
にあったわけですね。

山路 はい。この調査から見
えてきた声はとても貴重でし
た。状況は年々変わりますが、
アンケートを含め、引き続き
思いを聞いていくことが重要
だと感じました。「りんく・
る」はそうした交流を図る場
でもあると思っています。

西島 アンケート後はどのよ
うに進められたのですか？

山路 2018年には、地域
で活動されている方々から学

西島 方針が明確になったの
ですね。

山路 その後は具体化に向け
て検討を進めていきましたが、
ちょうどその頃、コロナ禍の
影響もあり組合員数が増加し、
7000人を超えました。当
時立案した第6次中期計画で
は1万人規模をめざしていた



京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向

ため、福祉拠点づくりの前に配送機能の強化が急務となり、新たなセンターの建設を優先することになったんです。

西島 そうした中で、西センターの活用が検討されたのですね。

山路 はい。どう有効活用するかについて議論を続けてい

ました。財政的制約もあるなか、理事会での検討を重ね、地域福祉の拠点とする方針が固まりました。

2021年はコロナ禍の影響で計画策定を見送りましたが、2022年から2026年の第6次中期計画でも、「西センターに福祉活動拠点をつ

くる」ことを明確化しました。組合員数については、当初2026年を目標としていましたが、現在は少しスパンを延ばし、2030年に向けて1万人規模をめざしながら、福祉拠点「りんく・る」の充実化を進めているところです。

ワーカーズ・コレクティブによる「働く場」づくり

西島 開所式では、福祉にと

どまらない幅広い活動の拠点

という印象を受けました。

山路 生活クラブの基本方針

に「FECの自給圏づくり」があります。Fはフー

ド、Eはエネルギー、Cはケア（

福祉・たすけあい）を指し、これらを地域でできるだけ自給しようという考え方です。

私たちはさらにW＝ワークを加えて、自分たちらしい働き方を実現しようとしています。

す。そのための組織が、メンバーが

カフェワーカーズのみなさん

出資し、経営に関わりながら働くワーカーズ・コレクティブで、福祉の拠点づくりとそれを担う人たちの働く場づくりを共に進めています。

西島 「働くこと」も重要な柱ということですね。

山路 はい。生活の糧を得るためだけでなく、自分たちらしく、たすけあいながら働く場を生み出すことが大切だと考えています。2016年の

アンケートでも「働く場がほしい」との声がありました。「りんく・る」はそうした地域に必要とされる働き方を形にしていくなかでありますね。

西島 現在、どのようなワーカーズが活動されているのですか？

山路 カフェワーカーズ、お惣菜・お弁当ワーカーズ、子育て支援ワーカーズの3つがあります。「こういうことをめざしているんだけど、一緒にやりませんか？」と組合員に声をかけるとともに、学習会で理解を深め、関心がある方たちの掘り起こしをしていきました。

西島 荷物の留め置き対応などもされているとか。

山路 はい。エル・コープは店舗を持たず、基本的に配送によって運営していますが、拠点のある地域では、近隣の組合員が荷物を取りにくる留め置きができます。その荷物

の仕分けを担うワーカーズも活動しています。

西島 もう立ち上がっているのですか？

山路 実際には長く活動していますが、ワーカーズ・コレクティブとしての設立には、事業計画などをまとめ、設立総会で承認を受ける必要があります。最近では、お惣菜・お弁当ワーカーズの台所「ぐるり」がここで設立総会をおこない、準備会から正式発足したんですよ。

西島 カフェワーカーズとは別組織なんですね。

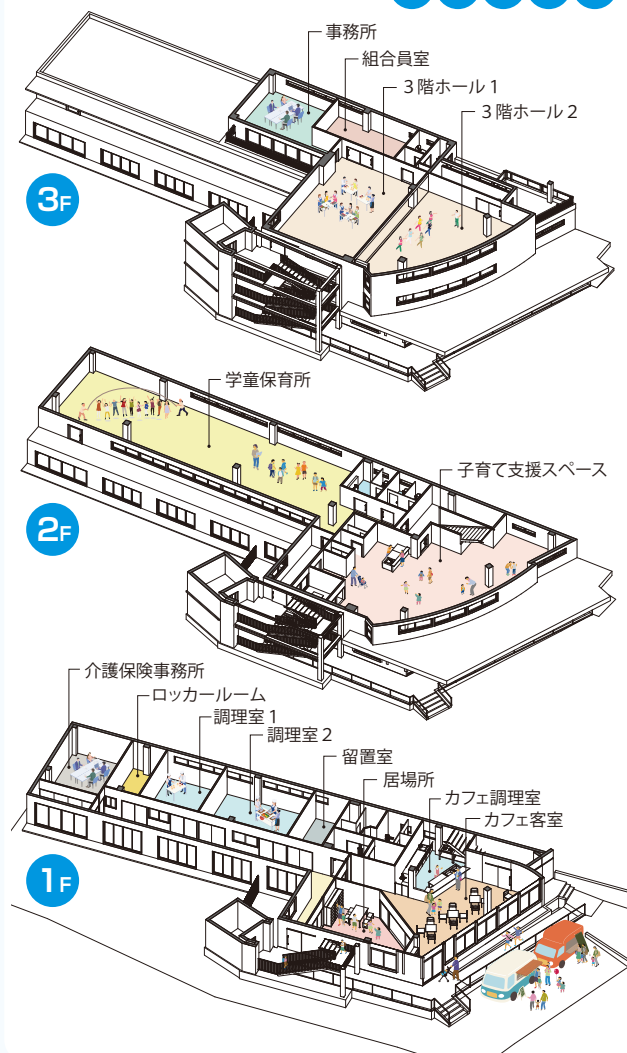
山路 カフェは地域の方が気軽に立ち寄れる入口としての役割を担い、「台所『ぐるり』」は現在予約制で惣菜やお弁当の販売をおこなっています。いずれは、地域の方々、特に独居の方や高齢者の方などにお届けする取組みができればと思っています。

「りんく・る」の名称に込めた思い

西島 「りんく・る」の名称は、どのように決まったのですか？

山路 「たすけあい活動スペース」を名称としています。

「愛称はぜひ組合員で決めた いね」ということから募集を



子育て世代が集う街で、共に支える場に

おこないました。46件の応募から理事会で検討し、最終的に採用となったのが「りんく・る」です。発案者の方は、「みんなが輪になって、巡りながらつながっていく場」を「リンク」で表し、日本語の動詞

の語尾「る」をつけてくださったようです。

西島 地域の活動拠点としての趣旨に合っていたわけですね。

山路 はい。ももとはアルファベット表記でしたが、親

西島 あらためて「りんく・る」の全体構成を教えてください。

山路 1階には、カフェワーカーズ「Katsurally」による

「Cafe + Meets（カフェプラスミーツ）」があります。その奥にはキッチン機能を備えた台所「ぐるり」が立ち上がり、お惣菜・お弁当を販売し

ています。また、エル・コープが運営する介護ケア事業として、生活クラブケアプランセンター「さざなみ」と生活クラブ訪問介護「まんまる」

の2つの事務所があります。

西島 2

階は子育て支援に特化されているのですね？

山路 はい。奥は、学童クラブを運営する京都市久世西児童館の

分室として活用いただいています。これは地域政策の実行案が承認されたあと、行政の地域福祉の関係者の方々にご相談する中で、学童の担当の方から「久世西小学校の生徒数が増え、学童クラブの場所を探している」とのお話をいただき実現しました。偶然が重なった、非常にありがたいご縁でした。

西島 本場にそうですね。またこの地域は、子育て世代が多いとお聞きしました。

山路 はい。JR桂川駅ができた頃からマンション開発が進み、今も200戸規模の建設が進行しているようです。京都市内でも特に子育て世代が増えているエリアですね。

西島 地域行事や子どもを大切にしている文化も根付いているようですね。

山路 そうなんです。桂川周辺のお寺では昔から「六斎念仏」が行われていて、地域の方々が支えておられます。また、子どもたちの安全を守るために道路にカエルのマークが描かれていて、自治会が中心になって定期的にペインティングされているんですよ。

西島 「りんく・る」はそうした地域のつながりを深める場になっているのですね。

山路 まだまだ始まったばかり。今後は子どもが増えたことによる課題に、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。

西島 2階にはもうひとつ、子育て支援スペースがあると伺いました。

山路 子育てスペース「ももこ」ですね。京都市の「乳幼児親子のつどいの広場」事業を受託し、エル・コープが運営しています。未就学児とその保護者の方が気軽に立ち寄って交流したり、子育てについて相談したりと、安心して過ごしていただける空間をめざしています。



地域のさまざまな方の居場所として

西島 乳幼児を育てている時期は心配ごとも多く、行き詰まることもあるでしょうね。

山路 辛さや孤独感是人によってさまざまですし、私たちが一方的に「大丈夫かどうか」は決められないのですが、苦しいときに気軽に話せる場所があることはとても大切だと考えています。ご家族や近所の方に加えて、それ以外の「誰か」と話せる選択肢を提供していきたいです。

西島 悩みや喜びを共有できる場があることは心強いですね。

山路 子育て中の方や高齢者の方をはじめ、地域の多様な方々にとって、「ここへ来れば誰かと話せる」と思ってもらえる場になりたい。これは、私個人の思いでもありますね。

西島 1階のカフェや介護サ

ービス、2階の子育て支援施設など、まさに多世代が集える場になっていますね。

山路 はい、さらにカフェの奥に居場所スペースをつくり、「居場所プロジェクトチーム」で活動を進めています。今、月1回開催しているのが「ブックトーク」。お気に入りの本を持ち寄って、「ここがお

すすめ」など気軽に語り合う場です。

西島 本を通じて世界が広がりますし、お互いの理解も深まりますね。

山路 本がきっかけの一つになれば。今後も将棋など気軽に参加できるイベントを企画しつつ、何もしなくても過ごせる場にもしたいと思っています。本やボードゲームなどもそろえていく予定です。

西島 それぞれのペースで、無理なく関わられるのがいいですね。

いい意味での「逃げ場」があることの大切さ

西島 開所式で、生活クラブ連合会の村上彰一会長が「今や人口の4割が一人暮らし。人に頼れない社会で、組合員同士のたすけ合いを地域に広げる拠点が必要だ」ということを話されていましたね。

山路 はい。私も子どもが未就学の頃、木津川の自宅からここに通い、会議の間は3階の託児室に預けていました。今でも、当時子どもを見てくださった方が「〇〇ちゃ

ん元気？」と声をかけてくださるんです。一緒に子どもを見守ってくれた仲間のような存在は、私にとってかけがえのない宝物です。

家庭や学校ではない関係性であること、「〇〇ちゃんはどういうところがあるよね」と親とは違った目線で見てください。親にも子どもにもありがたかったです。「りんく・る」も、そんなふうに関わりの中で支え合える

場所にしていきたいですね。

西島 解決まではいかななくても、誰かと話すだけで楽になることもありますしね。

山路 ええ。あえて言うなら、いい意味での「逃げ場」が必要だと思えます。子どもたちにとっては、「学校だけじゃない、家だけじゃない」と思える場所があるだけで、救われることもある。大人は自分で居場所をつくれますが、子どもは狭い世界にいます。

だからこそ、「りんく・る」がそんな選択肢の一つになればと願っています。「他にも居場所はあるんだよ」と伝えたいですね。

西島 子どもから高齢者まで、地域の誰もが心を寄せられる場としての広がりを、これから大いに楽しみにしています。



プロフィール
山路容子（やまじ ようこ）

生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープ 理事長
神戸市出身。2001年、生活協同組合 生活クラブ京都エル・コープに加入。きっかけは、長女が食物アレルギー。できるだけ添加物を使わず、国産原料を扱っていることに魅力を感じた。入職加入以来、地域委員（のちに支部委員）、環境委員会（事業に関する経歴など）などに携わり、2010年より理事、2022年より現職。

適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西(KC's) 通常総会・記念シンポジウム

6月28日(土)、マイドームおおさか8階第1・第2会議室及びオンラインで開催されました。

提案されたすべての議案(2024年度事業報告・決算、2025年度事業計画・予算など)が可決承認されました。

総会終了後は、記念シンポジウム「KC'sの今と未来」を開催。「町村先生に聞く、適格消費者団体の今と未来」をテーマに成城大学法学部・町村泰貴教授へのインタビューが、KC's・坂東俊矢常任理事を聞き手に開催されました。

今期をもって当会の西島秀向会長理事は理事長を退任し、鯉江賢光専務理事が理事として就任。KC's新理事長には、薮田高広氏が就任されました。

適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN) 総会



あおい法律事務所・荒井哲朗代表弁護士

5月27日(火)、京都司法書士会館で、適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワークの総会が開催されました。

はじめに、同ネットワーク・野々山宏理事長よりあいさつがありました。石田郁雄理事が議長に選任され、増田朋記事務局長の進行のもと、総会議事に入り、全議案が可決されました。理事の改選があり、京都府生協連・鯉江賢光専務理事が理事に再任されました。

総会後に、あおい法律事務所・荒井哲朗代表弁護士をお迎えし、記念講演会が開催されました。オンラインも配信され、約60人が参加しました。

第56回

京都消費者大会開催

5月24日(土)、京都経済センターとオンラインを併用して開催されました。主催は京都府、京都市、NPO法人コンシューマーズ京都で、京都府生協連が後援しました。

テーマは「『買い物で社会をかえられる?』商品の選び方について考えてみよう」。

岐阜大学・大藪千穂副学長(教育学部教授、日本消費者教育学会会長)より「グリー



岐阜大学・大藪千穂副学長

ン意識を行動につなげる消費者教育とは」と題して講演がありました。

グリーン志向の消費行動に関するワーキングチームでの議論の要点や、若者の環境意識と行動に関する研究のなかで実態調査をされた結果や、学校給食の残菜調査などについて報告がありました。

つづいて、NPO法人環境市民副代表理事・フリーランスアナウンサー・下村委津子さんをコーディネーターに、大藪教授と京都生協・岡田玲子理事によるトークセッションがありました。参加者は約70人でした。

食の安心・安全学習会「永遠の化学物質PFAS」開催

5月22日(木)、京都府生協連主催で、コープ御所南ビル会議室とオンラインで開催し、39人の参加がありました。

講師は京都大学・小泉昭夫名誉教授(公益社団法人京都保健会 社会健康医学福祉研究所所長)。



京都大学・小泉昭夫名誉教授

PFASとはどのような物質なのか、懸念される健康影響、日本の基準と食品安全委員会の見解と問題点、環境修復の必要性等についてお話がありました。

参加者からは「身近に京都府の綾部の産廃処理のなかで高い数値が出ていることを知ることができました。健康影響のあるものについてはしっかりと情報を公開していくことが大切な部分だと思います」「何が私たち組合員にできるのか、生協としてのPFASに対しての考え方や今後の伝え方などをそれぞれの生協で共有できればと思います」等の感想がありました。

京都府生協連 第72回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員21人を選任

6月19日（木）、午後1時30分から京都経済センターで開催しました。

今総会の代議員数は45人で、当日の出席は本人出席23人、書面出席22人でした。ご来賓をはじめ、64人が参加しました。



開会のあいさつをする
西島秀向会長理事

西島秀向会長理事が開会のあいさつをのべました。つづいてご来賓の京都府文化生活部・小林京子副部長（京都府・西脇隆俊知事代理）、京都労働者福祉協議会・原敏之会長から、ご祝辞をいただきました。

松本樹事務局長が、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた76通の祝辞や祝電・メッセージの一部をご紹介します。

提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。員外理事をふくむ18人の理事と3人の監事が選任されました。

2025年度の役員体制は左ページのとおりです。



祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた

（敬称略・順不同・6月18日現在）

衆議院議員自由民主党	勝 目 康	衆議院議員自由民主党	本 田 太 郎	衆議院議員日本維新の会	前 原 誠 司
衆議院議員立憲民主党	泉 ケンタ	衆議院議員立憲民主党	山 井 和 則	衆議院議員日本共産党	堀 川 あきこ
参議院議員日本共産党	井 上 さとし	参議院議員日本共産党	倉 林 明 子		
京 都 市 長	松 井 孝 治	京 都 府 議 会 議 長	荒 巻 隆 三	京都府社会福祉協議会会長	小 畑 英 明
京都市社会福祉協議会会長	高 屋 宏 章	京都商工会議所会頭	堀 場 厚	京都府農業協同組合中央会会長	中 川 泰 宏
京都府漁業協同組合代表理事組合長	西 川 順之輔	京都府森林組合連合会代表理事会長	青 合 幹 夫	近畿労働金庫理事長	江 川 光 一

総会だより

京都労働者福祉協議会 第69回定期総会

5月20日（火）、ラポール京都（京都労働者総合会館）で開催されました。京都労働者福祉協議会（京都労働協会は、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」をスローガンに掲げ、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。提案された「2024年度活動報告・会計報告等」「2025年度活動方針・予算」「役員体制」等の議案すべてが承認されました。京都府生協連では総江賢光専務理事を理事に派出しています。

京都府災害ボランティアセン ター総会・全体研修会

5月29日（木）、こどもみらい館4階第1研修室とオンラインを併用して開催されました。提案されたすべての議案について審議され、承認されました。同センターは、2004年に発生した台風23号による災害の教訓をいかに、被災地で円滑なボランティア活動をおこない早期復旧に尽くすことを目的に2005年に行政・民間団体・社会福祉協議会等による公・民協働、常設の災害ボランティアセンター組織として発足しました。京都府生協連は正会員として加盟しており、当会事務局長が副代表をつとめています。

（二社）京都食品産業協会 定時総会

6月27日（金）、ホテルモントレ京都で開催されました。提案された「令和7年度事業報告及び財務諸表承認の件」第2号議案「役

2025年度役職員体制

6月19日現在(敬称略) *印は新任

代表理事・ 会長理事	西 島 秀 向 (員外)
副会長理事	高 倉 通 孝 * (京都生活協同組合理事長)
副会長理事	姫 田 歩 (京都大学生協同組合専務理事)
代表理事・ 専務理事	鯨 江 賢 光 (員外)
常任理事	田 村 敏 * (京都府庁生活協同組合専務理事)
常任理事	飯 塚 光 一 * (立命館生活協同組合常務理事)
常任理事	上 西 良 太 (乙訓医療生活協同組合専務理事)
理 事	奥 谷 和 隆 (京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事)
理 事	川 村 幸 子 (員外)
理 事	姜 美 名 (京都生活協同組合副理事長)
理 事	上 坂 光 彦 (やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
理 事	清 水 泰 治 (京都医療生活協同組合専務理事)
理 事	蛭 田 美 幸 (全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
理 事	筆 口 智 子 (生活協同組合コープ自然派京都理事長)
理 事	柳 澤 克 哉 (京都橘学園生活協同組合専務理事)
理 事	山 路 容 子 * (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ理事長)
理 事	吉 岡 克 巳 * (京都生活協同組合常務理事)
理 事	吉 田 不 二 男 (京都市民共済生活協同組合専務理事)
特定監事	長 誠 一郎 (乙訓医療生活協同組合監事)
監 事	大 川 洋 * (京都生活協同組合常勤監事)
監 事	崎 濱 誠 (龍谷大学生協同組合専務理事)

(事務局)

事務局長	松 本 樹
事務局担当	川 端 浩 子
事務局担当	岡 本 朋 子

京都府生協連・
鯨江賢光専務理事

当日は5人の代議員・オブザーバーから、地域生協・大学生協・医療生協・共済生協の活動について、4件の活発な発言がありました。

これらの発言をふまえ、鯨江賢光専務理事が、「少子高齢化、人口減少、物価高騰など、事業を取り巻く環境の厳しさは続きますが、今年度も京都の生協の事業・活動が、京都の消費者のくらしにさらに役立てるように、力を合わせて、さまざまな活動に取り組んで参りたいと思います」と、まとめをおこないました。

立命館生協
飯塚光一オブザーバー

「立命館生協の活動報告」

生協コープ自然派京都
大塚美季代議員、高尾美香代議員

「2024度組合員活動報告」



発言者と発言テーマ

「会員生協の医療・福祉分野の交流について」

京都市民共済生活協同組合
金森徳昭代議員

「京都市民共済生活協同組合の活動」

乙訓医療生協
佐藤卓利代議員

今回退任された役員のみなさん

6月19日現在(敬称略)

理 事	畑 忠 男	(京都生活協同組合 前理事長)
理 事	本 多 浩	(京都府庁生活協同組合 理事長)
理 事	風 折 昌 樹	(立命館生活協同組合 専務理事)
理 事	浦 田 千 恵	(生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 理事)
監 事	河 野 直	(京都生活協同組合 前常勤監事)

きょうと食育ネットワーク総会

7月9日(水)、オンラインで開催されました。提案された第1号議案「令和7年度事業計画について」第2号議案「役員の選任について」のすべての議案が承認されました。京都府生協連・松本樹事務局長が幹事に選任されました。

総会後の情報交換会では、2025年2月に開催した「オンライン食育企画親子でチャレンジいわしクッキングの取組み」について、松本樹事務局長が報告しました。

京都府中小企業団体中央会総会70周年記念式典

6月20日(金)、ウェスティン都ホテル京都で開催されました。提案されたすべての議案が承認されました。その後に開催された創立70周年記念式典には、所属する中小企業の業界団体関係者約400人が出席し、節目を祝いました。京都府生協連は特別会員として西島秀向会長理事が参加しました。

NPO法人京都地球温暖化防止府民会議通常総会

6月21日(土)、ウィングス京都2階セミナー室とオンラインで開催されました。提案されたすべての議案が承認され、理事11人、監事2人が選任されました。

総会後、7月1日(火)に開催された書面理事会で、的場信敬氏(京都府地球温暖化防止活動推進センター長・龍谷大学)が理事長に就任されました。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

2025年国際協同組合デー 第35回京都集会開催

「国際協同組合年 (IYC2025) を迎えて」 をテーマに開催

「2025国際協同組合年事業」

7月2日(水)、京都JABで開催され、JA、JF、森林組合、生協から、会場97人、オンライン13人の計110人が参加しました。

国際協同組合デーは毎年7月第1土曜日を全世界の協同組合員が心をひとつにして協同組合の発展を願い、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されました。

京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会・京都府森林組合連合会・JF京都・京都府生活協同組合連合会)の主催で記念集会を実施しています。

2025年は、国連の定める「国際協同組合年」であり、協同組合を振興し、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた協同組合の実践、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高め

るため、国連、各国政府、協同組合がこの機会を活用することが求められています。

今年の国際協同組合デーは、そうした国際協同組合年を迎えるための京都集会として開催しました。司会は京都府漁業協同組合・佐藤妙子課長が担当し、JA京都中央会・中川泰宏会長より開会あいさつがありました。



農業経済学者、滋賀県立大学・増田佳昭名誉教授

I部記念講演では「協同組合の現代的課題と協同組合法制——協同組合基本法の提言をめぐって——」と題して、農業

経済学者、滋賀県立大学・増田佳昭名誉教授にご講演をいただきました。

参加者からは、「令和の米騒動の話の中で、それまでの米価が安すぎた。2022年度には更に値下がりし、その後2024年から急騰した事が大混乱を招いた様子をグラフを用いて説明され、大変わかりやすかった」「食料農業農村基本法には国の責務と明記されていて、食料の安定供給に果たすべき国の責任について考えさせられ、農業を税金で補填し、日本の食を守る施策をおこなってほしいと思いました」など多くの感想がよせられました。

II部「2025国際協同組合年と協同組合間連携事例の報告」と題して、(一社)日本協同組合連携機構(JCA・佐藤渉業務執行理事)にご講演をいただきました。参加者からは「協同組合間



JCA・佐藤渉業務執行理事

で、組合員が交流できるような取組みが出来たらいいと思いました」「協同組合は、国際社会においても高い評価を受け、SDGsにも深く関わっていることが印象に残りました」などの感想がよせられました。

閉会にあたり、京都府漁業協同組合・西川順之輔代表理事組合長が「国際協同組合年を通して、改めて協同組合の原点である、組合員のよりよい生活のために安心・安全な魚介類を届け、顔の見える関係づくりを引き続き大切にしたい」とあいさつされました。

2025国際協同組合年 (IYC2025)

学習会「協同組合のアイデンティティを考える」

「IYC2025の機会に」開催

6月5日(木)、京都経済センター6階6-D会議室で開催し、京都生協、大学生協、大学生協事業連合、全京都勤労者共済生協、J A京都中央会、京都府森林組合連合会から役職員36人、オブザーバー、事務局合わせて46人が参加しました。

講師に、(一社)日本協同組合連携機構(JCA)の前田健喜部長をお迎えし、「協同組合のアイデンティティを考える」IYC2025の機会に」というテーマでお話をいただきました。

学習会では1995年の協同組合のアイデンティティに



JCA・前田健喜部長



グループワークで考えを出し合う参加者

関するICA声明の意義、アイデンティティに関する世界的協議に向けたJCAからの提言等についてお話がありました。

講義のあと7つのグループにわかれ、講義を聞いての感想を出し合った後、グループワーク①「2025国際協同組合年って何?」を考える。

グループワーク②「協同組合とは?」を考える、に取り組みました。

このグループワークは、協同組合について、自らの言葉で発信していくことをめざしたものです。グループワーク

で考えた、「協同組合とは?」(なので組合員のみなさんには〇〇してほしい)について一部紹介します。「協同組合とは共通の目的、自分たちの願い、よりよい生活の為に、つながる、出資する、手を取り合う、話し合う、参加する、行動するという組織です。なので組合員のみなさんにはぜひ声をあげ、利用し、一緒に参加していただきたいです」「協同組合とはみんなが入って、よりよい生活をみんなでつくるという組織です。なので組合員のみなさんには、ぜひ利用・参加・活用していただきたいです!」。



グループごとに発表しました

能登半島地震被災地支援ボランティア参加報告

5月3日(土)〜5日(月)、能登半島地震被災地支援ボランティアに参加しました。訪問先は、3日午後 輪島市門前町道下第一仮設住宅集会所、4日午前 輪島市町野町金蔵集会所、午後 輪島市町野町第一仮設住宅集会所。

大阪府生協連から、昨年5月に共同で実施されたサロン活動を、今年度も引き続きおこなっていくにあたり、近畿地区生協府県連および富山県生協連と連携していくために、5月3日〜5日の支援活動への参加呼びかけが京都府生協連にあり、鯉江賢光専務理事が参加しました。初日午後には訪問した門前町道下の第一仮設住宅では、500食(2,500個)のたこ焼きを作り、仮設住宅にお住まいの方に食べていただきました。

二日目の金蔵集会所、町野町第一仮設住宅集会所では、小学生やその親御さん、高齢の方



たこ焼き作りに挑戦!!

方もたこ焼きづくりに参加され、ボランティアと一緒にたこ焼きを作りながら交流することができました。今回初めて能登半島被災地支援ボランティアに参加しましたが、震災から1年半、豪雨災害から9か月経った今も輪島の朝市通りは整地されてはいませんが、被災した状態のままの家屋も数多くあり、息の長い支援の必要性を感じました。



ボランティアのみなさん

ピースアクション京都 2025

6月21日(土)、京都府生協連のよびかけで
生協組合員約70人が、ピースパレードに参加



京都生協・高倉通孝理事長、同・姜美名副理事長、京都府生協連・西島秀向会長理事、同・川村幸子理事が先頭をきって行進

6月21日(土)、「2025年ピースパレード京都」が取り組まれました。「平和と核廃絶の願いをもちより、広島・長崎での世界大会につなげよう」との趣旨ではじまった京都の生協のピースパレードは今年で41回目をむかえました。京都府生協連のよびかけで、京都生協、大学生協連、高齢者生協くらし coop、京都高校生平和ゼミナールの高校生、鳥取県の生協からの参加もあり、組合員・役職員約70人が「今ある平和はたからもの―未来をつくるのはわたしたち―戦争も核兵器もない



京都生協役職員のみなさん



鳥取県の生協からも参加

社会をめざして！」をテーマに「NO NUKES 核兵器はいらない！」のプラカードを掲げ、街ゆく人びとに力よくアピールしました。多くの観光客の中を、東山区の蹴上から三条通りを行進し、三条大橋を渡り、河原町通りを北上して、京都市役所へ。

「私たちは核兵器のない平和な世界のために行動しています」と英語でメッセージを書いたうちわを作り、沿道の海外からの観光客などに配りながら、平和をアピールするなど、華やかな行進になりました。



京都府生協連・西島秀向会長理事が生協を代表してあいさつ

とを目的に開催。京都府内通し行進者・小林孝企さんのあいさつをはじめ、鳥取県生協連など生協関係者や、京都原水協関係者等がメッセージを発言し、交流を深めました。18人が参加しました。



ピース交歓会

ゴールとなった京都市役所前では、まとめ集会がおこなわれ、京都府生協連・西島秀向会長理事が生協を代表して、「唯一の戦争被爆国である日本が、核兵器禁止条約に参加し、世界に向けて『核なき未来』を訴えることを、強く求めます。核兵器による抑止力では平和は築けません。恐怖ではなく、対話と信頼による安全保障こそが、持続可能な未来への道です。これからも、力を合わせて、核兵器のない平和な世界を実現してまいりましょう」とあいさつをおこないました。

ピースパレード終了後、京都府生協連のよびかけで、ピース交歓会を開催しました。

平和を願う想いやメッセージを出しあい交流を深めるこ

憲法学習会「憲法が描く平和の未来 私たちができること」開催

5月27日(火)、京都テルサ東館3階セミナール室とオンラインで開催し、94人が参加しました。

京都生協、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生



国際ジャーナリスト・伊藤千尋さん

協連が共催しました。

国際ジャーナリスト、元朝日新聞記者の伊藤千尋さんが、南米ベネズエラやコスタリカなどの世界の事例や日本の現況を交えながら、憲法9条の力、9条制定の経緯などについて話され、「憲法9条は国を守り、国を越えて、人類を守る」と強調されました。

つづいて、平和活動家・元ユース非核特使の中西麻奈未さんをコーディネーターに、日本生協連が現地の生協と開催するピースアクションinオキナワに参加された京都生協の組合員とのトークセッションがありました。



平和活動家・中西麻奈未さん

参加者からは、「憲法9条は、過去に戦争を経験した方々が二度と同じ思いをさせないために作ってくれたものと言う言葉が印象に残りました」「憲法を使っていますか」と聞かれてギクッとした」などの感想が寄せられました。

第1回子ども平和新聞プロジェクト開催

「子ども平和新聞プロジェクト」は、戦後・被爆80年を迎える今年、次世代を担う子どもたちに、ジャーナリズムの視点を学びながら、平和について深く考えるきっかけを作ることを目的に実施します。平和に関する施設の見学・取材をする中で平和の重要性を理解し、新聞を通じて次世代に継承することを目指します。

学習会の前に、京都新聞社編集局総務・日下田貴政氏ひげたの案内で、京都新聞社編集局内を見学しました。



初めて見る編集局内に興味津々

本プロジェクトの企画は日本生協連、主催は京都府生協連、京都生協が共催、京都新聞社にご協力いただきました。第1回は、6月1日(日)、京都新聞社(京都市中京区)で、京都新聞社編集局報道部

京都府生協連 第52回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

終戦・被爆80年 平和な未来のためにつなぐ、 つたえる今ここから—学生と今と未来を考える—



立命館大学4年生・
倉本芽美さん

7月15日(火)、コープ御所南ビル会議室とオンラインで開催し32人が参加しました。京都府生協連・西島秀向会長理事が開会にあたってのあいさつをのべ、コープイネイターをつとめました。

今年8月に終戦・被爆80年を迎え、被爆者の貴重な記憶と想いを次世代へ伝えていくことがとても重要な課題となっています。未来にしっかりとこの歴史を受け継ぎ、核兵器のない平和な世界にするために、「今私たち一人ひとりができることは何か」「生協の役割は何か」を考え合う機会となりました。

まず初めに、基調講演では大学生で核兵器禁止条約締結を求めている活動している広島県出身、立命館大学4年生・倉本芽美さんから「核時代に生きる私たちにできる選択」をテーマにお話をいただきました。倉本さんが共同代表を務め

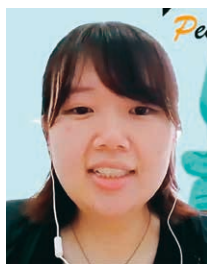
ているKNOW NUKES TOKYO(※被爆地の外で核兵器のことを考え、その思いを行動に移す若者の団体)が、今年3月にニューヨーク国連本部で開かれた「核兵器禁止条約第3回締約国会議」に参加し、日本国内では、政府がオブザーバー参加さえ見送ったことで報道が少なかつたなか、一つのメディアとして、現地から毎日会議の内容や被爆者との対談のようすを配信したことを報告されました。そして、この国際会議のパネルディスカッションでKNOW NUKES TOKYOのメンバーが発言をするなど被爆国の学生として、大きな役割を發揮されました。また、世界中で年々核兵器に費やされるお金が増えている実態に触れ、核兵器を維持することでかかる費用が医療や福祉に活用された場合、はしかなどのワクチンが世界の多くの人に提供できることなどを可視化して示しました。最後に、「一人の強いリーダーではなく、たくさんの方が核兵器廃絶に向けて一歩をふみ出し、あなた自身の『平和』を大切にしてほしい」とメッセージを送られました。



京都生協組織運営部
北ブロック長補佐・
川合陽子さん

つぎに、京都生協北ブロック長補佐の川合陽子さんが「京都生協平和の取り組み」を報告。次世代に継承する取り組みの一つとして、昨年8月に「ピースアクションinヒロシマ」に参加した小学生のメッセージなどについて紹介されました。

つづいて、立命館アジア太平洋大学(APU)3年生・平野昌美さんから「Peace Now APU」について報告がありました。中国に住んでいる時に反日デモを経験し、平和に興味を持ったことや、Peace Now Nagasakiに参加して自分の大学の中でも「見て学んで考える参加型の平和企画」を「Peace Now APU」と題して実施したことを報告されました。



立命館アジア太平洋
大学(APU)3年生・
平野昌美さん

おもな行事のお知らせ

2025年度京都府総合防災訓練

日時：8月31日(日)午前

会場：主会場・海洋高校、栗田小・中学校(宮津市)、他

※京都府生協連は緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合「第24回役職員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会・森連・JF京都・生協連)

日時：9月11日(木)13:00～12日(金)12:00(予定)

会場：京都木材流通センターなど(予定)

テーマ：「木材の流通を学ぼう(仮)」

京都消費者問題セミナー

日時：10月23日(木)10:00～12:00

オンライン開催

テーマ：「あなたを悩ませるネット広告！～悪質・巧妙な広告による消費者トラブルにまきこまれるために～」

講師：笠井北斗氏(一社)日本アフィリエイト協議会(JAOC)代表理事

主催：京都環境フェスティバル2026委員会

日時：2月11日(水・祝)

会場：京都府総合見本市会館(予定)

※京都府生協連は会員生協の環境商品、取組み紹介で出展予定。

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会
TEL 075(259)1559
URL <http://www.kyotofu-seikyoren.com>

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上る時給屋町258番地 コープ御所南ビル4階